

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

99.3.11 No. 4930



港合同  
辻岡執行領



動労千葉  
田中書記長



関西生コン  
川村副委員長

## 三組合よびかけで

# 春闘学習交流集会開催

3月6〜7日、熱海において、動労千葉、全日建関西生コン支部、全金港合同の呼びかけによって、「99春闘勝利、学習・交流集会」が開催され、一三〇名が結集した。集会では、関西生コン・川村副委員長、港合同・辻岡執行委員、動労千葉・田中書記長から、それぞれの組合の闘いが報告され、二日目は埼玉大学・鎌倉教授からの講演を受けて、学習・交流を深め、大成功のうちに終了した。ここでは、中野委員長のととのめ「あいさつ(要旨)」を掲載します。

### 中野委員長のととのめ

この集まりは、昨年11月に三組合で発した、闘う労働組合の全国ネットワークを創ろうという呼びかけをひき継ぎ、99春闘に向けて三つの組合がお互いを理解し、交流を深めることが非常に大切だということでも一致し開催されました。この呼びかけは、労働者が闘わなければ生きていけない時代が到来している、一切の打開策は労働組合が団結して闘うことにある、という認識のもとに、三つの労働組合が結集したということに非常に大きな時代性があったと思います。かつて国鉄労働運動が解体寸前の攻撃を受け、総評が解散し連合が結成されて、時を同じくして民間中小にも大変な攻撃が襲いかかりました。それぞれの組合は果敢に闘い挑戦しつづけてきました。私自身も、大失業と戦争の時代といわれる今日の状況のなかで、民間中小で闘う労働組合に学び、連帯し、経験を共有して一緒に敵にあたることの重要性を非常に感じ

ました。今日を出発点に99春闘、ガイドライン闘争を闘い、11月には再度昨年を上回る労働者を結集する闘いに発展させていくことが一番重要ではないかと考えます。

### 危機に強い組合

三つの組合には非常に共通性があります。日本の権力者たちは73年のオイルショックをきっかけに構えを改め民同型、総評型の労働運動であつてもこれを潰していくということに踏み切る。労働運動全体は「雇用か賃上げか」という恫喝に屈して「会社あつての労働組合」という連合路線に転落し衰退してゆきます。資本主義の危機、不況の到来、会社が倒産寸前になるといふ状況にめげずに闘いを開始し、真価を発揮した労働組合であつたことです。大阪の港地区は労働者の街で、街全体がスクラップ化されていくという状況が進行しますが、そういうなかで団結を維持するすばらしい闘いが行われています。やればできるのだということ。一方で今日の連合や全労連は、なんとか資本主義の危機を救おうということばかりを言っています。

全金港合同田中機械支部は、76年から89年、実に13年かかって破産法下の闘いを展開し、関西生コンは80年代の大変な弾圧のなかで熾烈な攻防を繰り広げ、共産党が「反社会的運動」と認定する状況をかいくぐって今日に至っています。私たち動労千葉も三里塚ジェット闘争を闘い、動労内における革マルとの闘い、分割・民営化反対闘争を経て今日に至っています。

関西生コン支部が言うように、私たちは、敵が危機に陥つたときは労働組合にとつてはチャンスなんだということをはずきりとさせ、激しく資本と闘い、その闘いを貫徹するために労働組合の団結の強化拡大ということを不断に追求してきました。港合同田中機械支部も、破産・倒産という事態に対して労働者の生存権を対置し、生存権というのは実は団結権にあるのだという立場からすべてを判断するという闘いを展開しました。労働者の団結の根源は職場にあり、職場はどんなことがあつても絶対には渡さないというところに勝利の鍵があつたということをきちんと言わなければなりません。動労千葉も少数組合ですが、全国にはばたこうという方針を提起しました。三組合それぞれが地方・地域で存在するだけでなく、仲間を集めて全国に飛びだそうということでも一致しました。

### 春・秋の闘いへ

今全国には中小・零細で働く不安定雇用、日々雇用労働者が四千万人います。ほとんどかせ未組織労働者です。未組織の組織化は困難な課題ですが、ここをなんとかしなければいけないというのが三組合の共通の願いです。重要なことは公労協や民間大産別の労働者が、本気になつてこの課題を闘っていくことです。これは闘う労働運動をもう一度創りあげるために決定的に重要な課題です。

99春闘についてですが、実質的な春闘の解体が始まっています。賃闘を基礎にあらゆる課題をぶつ



け、奮闘する必要があります。とくに今年の春闘はガイドライン春闘です。ガイドライン闘法は日本が戦争をやる国になるといふ戦後最大の反動攻撃です。労働者はこれに対し真向から闘う必要があります。とくに鎌倉先生の講演でも明らかにされたように、戦争の最大の衝動は日本の中にあるという暴露が決定的です。日本のブルジョアジーは過剰資本と過剰な生産力を処理するために朝鮮半島の戦争を待望しています。しかも国会では労働者派遣法の改悪、年金法改悪など反動法案が目白押しです。労働組合の団結した反撃が求められています。三、四月が最大の山場です。多くの労働者に呼びかけ、国会にむかつて闘いを開始する必要があります。そして春闘にふまえ、11月には昨年を上回る闘いをやり、日本の労働運動を変えるような大きな運動を創りあげたいと思っています。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!